

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 04 01	中期総合計画主要施策番号		1-04,1-08,5-06		担当課	部・課	林務部 野生鳥獣対策室		
事業名		野生鳥獣総合管理対策事業				内線		3266			
						E-mail		shinrin@pref.nagano.jp			
事業の概要等	事業の目的	野生鳥獣との緊張感ある棲み分けと野生動物による農林業被害の軽減を図るため、総合的な被害防止対策を実施する。									
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 野生鳥獣による農林業被害が頻発しており、農林業の生産意欲を減退させるなど農山村地域に及ぼす影響は大きい。また、ニホンジカの植生被害も大きく、自然環境に与える影響も深刻になっている。									
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・里山が野生鳥獣にとって良い環境となるなど、野生鳥獣の生息環境の変化及び生息数が増加している。 ・農山村の過疎化、住民の高齢化により鳥獣被害に対する抵抗力が低下している。 ・集落ぐるみで複数の対策を組み合わせた総合的対策が不十分である。									
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 農林業をはじめとする行政や関係機関が連携し、集落を単位とした地域特性に応じた総合的な対策を推進する必要がある。									
	事業内容	農林等の行政組織が一体となった「野生鳥獣被害対策チーム」等による集落を単位とした総合的、複合的、継続的な取り組みを支援する。 ・被害防除対策(追払い、樹皮剥ぎ防止テープ巻き、緩衝帯等、造林木保護) (補助率: [国] 1/2又は[県] 1/2) ・捕獲・管理(集落自衛団組織化支援、広域捕獲支援、学習放獣等) (補助率: [国] 1/2又は[県] 1/2) ・個体数調整(補助額: [県] オスジカ: 1,000円/頭、メスジカ: 2,500円/頭、サル: 2,500円/頭、イノシシ: 2,000円/頭)									
実施期間	H16 ~		根拠法令等		鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価		
	地域特性に応じた総合的な被害防止対策を行って野生鳥獣と共存できる環境をつくり農林業被害の軽減を図る。 (19~23年度 1,300の被害集落に支援 18~22年度 ニホンジカの生息数を半減)		・1,300の被害集落のうち、260の被害集落に対し支援する。 ・ニホンジカを年間8,300頭(うちメス5,500頭)捕獲する。			・H20年度に238の被害集落に支援を実施した。(支援集落率: 18%) ・H20年度に14,674頭のシカを捕獲し、捕獲目標数をクリアした。(達成率: 177%) また、メスの捕獲数は7,956頭(145%)と、目標に達している。			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	3	20年度の概要				
	最終予算額 (A)		千円	66,598	64,299	69,673	国庫・県単	国庫・県単			
	決 算 額 (B)		千円	66,473	63,725		実施方法	直接、補助、委託			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	31,249	29,607	26,945	歳出節別内訳等	補助金等: 51,653 委託: 8,305 需用費等: 3,767			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	3.50	3.50	3.50	(単位: 千円)				
	概算人件費 (C)		千円	24,990	25,022	25,022					
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	91,463	88,747	94,695						
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績				
	被害対策支援集落数		集落	281	238	260	・野生鳥獣被害対策チームによる被害集落における「集落ぐるみの被害対策」を実施した。				
	ニホンジカの捕獲頭数		頭	10,406	14,674	8,300	・ニホンジカの広域捕獲を実施した。 ・ニホンジカのみ狩猟期間を1ヶ月延長した。				
	事業実施市町村数		市町村	74	69	72	・野生鳥獣に負けない集落づくり事例集を県ホームページに掲載した。				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明								
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・県下市町村の9割で事業が実施されており、市町村数は目に見えて増加しないものの、要望額は増加傾向にある。 ・シカ等野生動物の被害防除対策は専門的知識を持ち、広域の取組みが必要であるため、県の関与が必要である。 ・総合的な防除対策が十分でない地域もあり、有効性、効率性を高める余地はある。					
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり							
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり							
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり							
課題の総括		総合的な防除対策が十分でない集落も多いため、引き続き集落ぐるみの対策を総合的、計画的に推進するとともに、ニホンジカについては、広域捕獲支援等を通じて計画的な捕獲に努める中で、メスジカの捕獲を積極的に進める必要がある。									